

〈研究ノート〉

『資本論』における反映概念ノート（一）

石 井 伸 男

Der Begriff von „widerspiegeln“ in K.Marx<Das Kapital>(1)

Nobuo ISHII

1. 問題の所在

1) マルクスが「反映」という概念をどう用いているか、その使用法を調べ直そうと思い立った直接のきっかけは、竹内真澄による拙著『マルクスにおけるヘーゲル問題』の書評にあった。

竹内は、私が上記拙著でマルクスの意識論を論じた箇所につれて、つぎのように述べている。

「本書を貫く反スターリニズム的なスタンスにもかかわらず、著者（＝石井）は、『反映論の見解そのものは理論的に正当であって、保持されるべきだと考えている』（209ページ）と明言する。評者（＝竹内）はいささか、出鼻をくじかれた。マルクスの言う反映はzurückspiegelnで、マルクス・レーニン主義の言う反映はwiderspiegelnだという区別を押さえた上で著者はそう述べている」、と。

竹内による拙著の批評全体は、むしろ過大な評価といえるほどの好意的なもので、それについては謝意を述べたいと思う。またマルクスの意識論について私の議論の不備を突いている点は、それとして受け止めるのにやぶさかではないのだが、しかし上記の「反映」に関する批評については違和感を感じた。

2) 一つ自己反省している問題は、私が「反映論の見解は理論的に正当で、保持すべきだ」と書いたことが、表現が不十分で、この問題についての私の基本見解を竹内に誤解させる結果になったと思われる点である。

私がそこでいいたかったのは「反映論擁護」というよりはむしろ「反映概念擁護」であった。この方面の議論に詳しい人にとってはすでに周知のことであるが、ソ連等旧社会主義世界で公認の哲学的見解とされてきたいわゆるマルクス・レーニン主義理論では、認識とは人間の意識の外にある世界を模写し・反映するのが本質だとする見解が「反映論」（Widerspiegelungstheorie）という名

称で通用してきた。これはマルクスが明示したのではなくて、エンゲルス、レーニン経由で作られたロシア・マルクス主義の公式見解である。

私は以前からこの見解は誤りであり、マルクスに則するならば、意識の本質は「関係の対自的発現」であり、また意識をその機能からとらえるならば、「対象反映性」と「自己表現性」の二契機からなると主張してきた。以上のような私の基本見解からして、私は「反映論」を擁護するといふべきではなくて、「反映概念」を擁護すると書くべきであった。私がここでマルクスの叙述を再検証してみようと考えたのは、まずこの点に関っており、マルクスは「反映」という言葉を、意識がその外の対象を反映するという意味で用いているかどうか明らかにしようという意図による。

3) さらに検証すべき論点として次のような問題がある。かつて古在由重は人間の認識を対象の反映のみならず、主体の反映でもあるととらえるべきだとする「反映の二重性」論を唱え、それは唯物論哲学の世界にかなり広く影響を及ぼした。…「一つは意識のそとにある対象からの反映であり、もう一つは意識の所有者である主体そのものの反映であります」。近年では牧野広義がこの古在説にも依拠しつつ、認識＝反映論を主張している。マルクス自身の叙述に、反映概念をこうした「主体の反映」という意味に用いる用法が存在するのかどうか、今回確かめたい論点である。

2. 予備的考察

1) 個々の分析に入る前に、日本語で「反映」と訳される言葉の問題について若干整理しておかなくてはならない。マルクスは自身の大部分の著作をドイツ語で書いているので、当然ドイツ語でそれに当たる語がまず問題である。

そしてwiderspiegelnがその主な用語だということには、おおかた異論がないだろう。この語は分離動詞(wider/spiegeln)であり、「反」の意味の前綴りwiderと「映す」意味のspiegelnとをつなげた語である。他動詞「～を反映する」と自動詞(再帰動詞)sich widerspiegelnの形で「映る」になる二つの用法が存在する。また名詞形でWiderspiegelung(反映)という語も存在する。だが、この語に似たab/spiegeln、zurück/spiegeln等の語もまたあり、どちらかといえば副次的にはあるがマルクスはそれらも使用している。だから、竹内が上述の書評で述べた「マルクスの言う反映はzurückspiegelnで、マルクス・レーニン主義の言う反映はwiderspiegelnだという区別」なるものは不明なのである。これは後に具体的分析で示す。

もう一点付加しておくべきことがある。それはマルクス没後エンゲルス監訳のもとにエーブリング(Edward Aveling 1851-1898)が手がけた『資本論』第一巻の英訳では、「反映する」にreflectという英語が用いられていることである。そして実はドイツ語にもこれと語源を同じくするreflectieren(またはreflektieren)という語があり、マルクスがこれを使って同種の事柄を書く場合も散見される。したがってこれも考慮に入れて分析に当たる必要がある。

2) 分析対象として選んだのは『資本論』(Das Kapital) I～III巻および『剰余価値学説史』で

ある。これらはよく推敲された成熟期マルクスの体系的著作であり、しかもwiderspiegeln等「反映する」に当たる語がかなりの数登場する。したがって、マルクスにおけるこの概念の意味を確定するにはほぼ十分であろう。なお検討に当たって大月書店『マルクス・エンゲルス全集』別巻4（事項索引）を参考にした。これは旧ドイツ民主共和国マルクス・レーニン主義研究所の手になるものの翻訳版で、内容分類方法については必ずしも賛成ではないが、使われている箇所の見当をつけるには便利で役に立った。

3. 本論【『資本論』第一巻での分析】

以下まず『資本論』第一巻の範囲で、マルクスにおける「反映」の用法を調べることにする。そのさい、なにが、なにを、なにに、どのように反映するかを、なるべく明確にするように努める。（ただし再帰動詞の場合は、主客は一致するので「なにを」を区別して問えないのは自明である）。

第一巻に登場してくる順序に沿って、まず原文を掲げ、次に日本語訳をつける。直接の該当箇所には下線を付してわかりやすくする。各文章の最後に必要ならばコメントを付す。

Das Kapital, Band 1 (1867), MEW, Bd.23

【1】 s.27 Die Forschung hat den Stoff sich im Detail anzueignen, seine verschiedenen Entwicklungsformen zu analysieren und deren innres Band aufzuspüren. Erst nachdem diese Arbeit vollbracht, kann die wirkliche Bewegung entsprechend dargestellt werden. Gelingt dies und spiegelt sich nun das Leben des Stoffs ideell wider, so mag es aussehen, als habe man es mit einer Konstruktion a priori zu tun.

（訳） 研究は素材を細部にわたって我がものとし、その種々の発展諸形態を分析し、それらの内的紐帯を見つけ出さなくてはならない。この仕事が完成した後にはじめて、現実の運動をそれに照応して叙述することが可能になる。これがうまくいって、素材の生命が観念的に反映されるならば、あたかも一つの先天的な構成が行われたかのように見えるかもしれないのである。

（コメント）これは第二版後記中、学の方法を論じた箇所にあり、叙述の方法と研究の方法を区別した文章である。研究対象である「素材の生命」が、学の体系に「観念的に反映される」と述べている。

【2】 s.69 Wirkliche Wechsel der Wertgröße spiegeln sich also weder unzweideutig noch erschöpfend wider in ihrem relativen Ausdruck oder in der Größe des relativen Werts. Der relative

Wert einer Ware kann wechseln, obgleich ihr Wert konstant bleibt. etc.,

(訳) それゆえに価値量の現実の変動は、その相対的な表現に、あるいは相対的価値の大きさに明確にも完全にも反映しないのである。一商品の相対的価値は、その価値が不変のままであっても、変動することがありうる。・・・

(コメント) 第一章商品の、等価形態の箇所である。見られるように「商品の現実の価値量」がその「相対的表現」に反映するのだが、しかし「明確にも完全にも反映」はしないと書かれている。マルクスによれば価値量は、社会的に平均的な熟練度における抽象的人間労働の量によって与えられるのだから、絶対量である。これは結局は商品価格に反映するのだが、しかしストレートにではないという趣旨の文である。

【3】 s.81 In der Form von Leinwandgleichen erscheinen jetzt alle Waren nicht nur als qualitativ Gleiche, Werte überhaupt, sondern zugleich als quantitativ vergleichbare Wertgrößen. Weil sie ihre Wertgrößen in einem und demselben Material, in Leinwand bespiegeln, spiegeln sich diese Wertgrößen wechselseitig wider.

(訳) リンネルに等しいものという形態では、いまやすべての商品は質的に等しいもの、価値一般として現れるだけではなく、同時に量的に比較できる価値量として現れる。すべての商品はそれぞれの価値量を同一の材料、リンネルに映すので、これらの価値量は互いに反映しあうのである。

(コメント) これは一般的価値形態を論じた途中に登場する文章であり、論理的にみて興味深い叙述である。すべての商品各々が、ここでは一般的等価物の役割を果たすリンネル商品に価値量を「映すbespiegeln」ので、それを媒介として各商品が価値量を相互に反映させ、量的比較できるようになるという。

【4】 s.86 Das Geheimnisvolle der Warenform besteht also einfach darin, daß sie den Menschen die gesellschaftlichen Charaktere ihrer eignen Arbeit als gegenständliche Charaktere der Arbeitsprodukte selbst, als gesellschaftliche Natureigenschaften dieser Dinge zurückspiegelt, daher auch das gesellschaftliche Verhältnis der Produzenten zur Gesamtarbeit als ein außer ihnen existierendes gesellschaftliches Verhältnis von Gegenständen.

(訳) それゆえに商品形態の秘密はただ次の点にある。すなわち人間たちに対して彼ら自身の労働の社会的性格を、労働生産物そのものの対象的性格として、これらの物の社会的な自然属性として反映させ、したがってまた生産者たちの総労働への社会的関係を、彼らの外に

実存する諸対象の社会的関係として反映させる、ことに。

（コメント）これは第四節「商品の物神的性格とその秘密」にある、有名でかつ重要な叙述である。ここでは「Xをaとして反映させる」という論理が特徴的である。商品という形態が、人間たちに、彼らの労働の社会的性格を、労働生産物の対象的性格として反映させる、云々。つまり人と人との関係を物の属性として、物と物との関係として映し出すのである。それは人の意識にそのように映すに違いないが、しかしこれはたんに主観的でそう思わなければ消えてしまうような仮象ではなく、商品生産が一般的に行われる社会では共同主観的＝客観的に成り立ち、人々はこの「反映」から逃れられないのである。

【5】 s.88 Das Gehirn der Privatproduzenten spiegelt diesen doppelten gesellschaftlichen Charakter ihrer Privatarbeiten nur wider in den Formen, welche im praktischen Verkehr, im Produktaustausch erscheinen — den gesellschaftlich nützlichen Charakter ihrer Privatarbeiten also in der Form, daß das Arbeitsprodukt nützlich sein muß, und zwar für andre — den gesellschaftlichen Charakter der Gleichheit der verschiedenartigen Arbeiten in der Form des gemeinsamen Wertcharakters dieser materiell verschiedenen Dinge, der Arbeitsprodukte.

（訳） 私的生産者たちの頭脳は彼らの私的労働のこうした二重の社会的性格を、実践的交易、生産物交換で現れる形態でのみ反映させ——したがって彼らの私的労働の社会的に有用な性格を、労働生産物が有用でなければならずしかも他人にとってそうでなければならないという形態で反映させ——異種の労働の同等性という社会的性格をこれらの素材的に異なる諸物の、労働諸生産物の、共通な価値性格という形態で反映させるのである。

（コメント）【4】と同じく世界の物象化現象を語っている。私的生産者たちの頭脳に、労働という主体的活動の社会的性格が、物に備わる価値性格という形態で反映されるという。反映のあり方が、前項と同じく事態を転倒させた姿で起こるのが特徴的である。

【6】 s.94 Diese wirkliche Befangenheit spiegelt sich ideell wider in den alten Natur- und Volksreligionen. Der religiöse Widerschein der wirklichen Welt kann überhaupt nur verschwinden, sobald die Verhältnisse des praktischen Werktagslebens den Menschen tagtäglich durchsichtig vernünftige Beziehungen zueinander und zur Natur darstellen.

（訳） このような現実の被局限性は、古代の自然宗教や民俗宗教に観念的に反映している。およそ現実世界の宗教的反映は、実践的な日常生活の諸関係が、人間たちに相互間および対自然の透明で合理的なつながりを日々表すようになったときにのみ、消滅しうるのである。

(コメント) Widerscheinは、動詞widerscheinenの名詞形で、反映と訳しても反射と訳してもかまわないだろう。宗教は、現実世界が観念的に反映した産物だが、それが現実をそのままではなく転倒・倒錯した形で映すということが示唆されている。

【7】 s.99 Dies Rechtsverhältnis, dessen Form der Vertrag ist, ob nun legal entwickelt oder nicht, ist ein Willensverhältnis, worin sich das ökonomische Verhältnis widerspiegelt.

(訳) 契約をその形態とするこの法的関係は、法律的に発展していてもいなくても、経済的關係がそこに反映している一つの意志関係である。

(コメント) 第二章交換過程の書き出し部分にある。いわゆる経済的土台の上部構造への関係を、反映と特徴づけている。

【8】 s.130 <1> Andererseits kommt dem Geld nur die Funktion des Zirkulationsmittels zu, weil es der verselbständigte Wert der Waren ist. Seine Bewegung als Zirkulationsmittel ist daher in der Tat nur ihre eigne Formbewegung. Diese muß sich daher auch sinnlich im Umlauf des Geldes widerspiegeln. /....<2> Die beiden entgegengesetzten Formwechsel derselben Ware spiegeln sich also wider im zweimaligen Stellenwechsel des Geldes in entgegengesetzter Richtung./....<3> In der häufigen Wiederholung des Stellenwechsels Geldstücke spiegelt sich wider nicht nur die Metamorphosenreihe einer einzigen Ware, sondern auch die Verschlingung der zahllosen Metamorphosen der Warenwelt überhaupt.

(訳) <1> 他方、流通手段という機能が貨幣に属するのは、それが諸商品の価値が自立させられたものであるからに他ならない。だから貨幣の流通手段としての運動は、実際にはただ商品自身の形態運動にすぎないのである。それゆえまたこの形態運動は、感覚的にも貨幣の流通に反映しなければならない。/....<2> だから同じ商品の対立する二つの形態変換は、反対方向への貨幣の二度の場所変換に反映するのである。/....<3> 貨幣片の場所変換のひんばんな繰り返しには、ただ一個の商品の変態列が反映しているだけではなく、また商品世界の数限りない変態の絡みあいが反映しているのである。

(コメント) 第三章 貨幣または商品流通、流通手段、貨幣の流通の箇所。一連の叙述に「反映」が頻出する。これは内容的には、W...Wという運動がG...Gという運動に現れることを言っている。

【9】 s.132 Ob der Preiswechsel der Waren wirkliche Wertwechsel widerspiegelt oder bloße Schwankungen der Marktpreise, die Wirkung auf die Masse der Zirkulationsmittel bleibt dieselbe.

（訳）商品の価格変動に反映するのが、現実の価値変動であろうと、たんなる市場価格の変動であろうと、流通手段の量への影響は同じことである。

【10】s.141 Papierzettel, denen Geldnamen, wie 1 Pfd.St., 5 Pfd.St. usw. aufgedruckt sind, werden vom Staat äußerlich in den Zirkulationsprozeß hineingeworfen. Soweit sie wirklich an der Stelle der gleichnamigen Goldsumme zirkulieren, spiegeln sich in ihrer Bewegung nur die Gesetze des Geldumlaufs selbst wider.

（訳）1 ポンド・スターリングとか5 ポンド・スターリング等の貨幣名が印刷されている紙片が、国家によって外から流通過程に投げ込まれる。それが現実と同名の金の額にかわって流通するかぎりでは、その運動にはただ貨幣流通そのものの諸法則が反映するだけである。

【11】s.143 Daher genügt auch die bloß symbolische Existenz des Geldes in einem Prozeß, der es beständig aus einer Hand in die andre entfernt. Sein funktionelles Dasein absorbiert sozusagen sein materielles. Verschwindend objektivierter Reflex der Warenpreise, funktioniert es nur noch als Zeichen seiner selbst und kann daher auch durch Zeichen ersetzt werden.

（訳）それゆえに、貨幣をたえず一人の手から他人の手へと遠ざけていく過程では、貨幣のたんなる象徴的な存在でも十分なのである。その機能的定在が、いうならばその物質的定在を吸収する。商品価格の瞬間的に客体化された反映として、貨幣はただそれ自身の章標として機能するだけであり、したがってまた章標によって代理することができるのである。

（コメント）この文章は「なぜ金はそれ自身のたんなる無価値な章標によって代理されることができるのか？」という問への答えである。ここにReflexという語が使われている。「反映」と訳したが、「反射」でもいいだろう。ただ、大月書店版の岡崎次郎訳にならって「商品価格の瞬間的に客体化された」と訳した所は、これが適訳かどうかはあまり自信がない。

【12】s.150 Im Mittelalter endet der Kampf mit dem Untergang des feudalen Schuldners, der seine politische Macht mit ihrer ökonomischen Basis einbüßt. Indes spiegelt die Geldform — und das Verhältnis von Gläubiger und Schuldner besitzt die Form eines Geldverhältnisses — hier nur den Antagonismus tiefer liegender ökonomischer Lebensbedingungen wider.

（訳）中世には〔階級〕闘争は封建的債務者の没落で終わり、債務者はその政治権力を彼らの経済的基盤とともに失うのである。それにもかかわらず貨幣形態——債権者と債務者の関係は一つの貨幣関係という形態をとる——は、ここでは、より深く根ざしている経済的生活

諸条件の敵対を反映しているだけにすぎない。

(コメント) 古代および中世では、債権者と債務者間の闘争が表面に現れているが、それは異なる階級間の「より深部における生活諸条件上の敵対」の反映にすぎないという。

【13】 s.158(Anmerkung109) Die Gegner des Merkantilsystems, welches die Saldierung überschüssiger Handelsbilanz durch Gold und Silber als Zweck des Welthandels behandelte, verkannten ihrerseits durchaus die Funktion des Weltgeldes. Wie die falsche Auffassung der Gesetze, welche die Masse der Zirkulationsmittel regeln, sich in der falschen Auffassung der internationalen Bewegung der edlen Metalle nur widerspiegelt, habe ich ausführlich an Ricardo nachgewiesen.

(訳) 重商主義は、金銀による貿易差額の決済を世界貿易の目的として取り扱うが、その敵対者たちもまた世界貨幣の機能をまったく誤解していた。流通手段の量を規制する諸法則の誤解が、いかにもっぱら貴金属の国際的運動の誤解に反映しているかを、私はリカードについて詳しく指摘しておいた。

【14】 s.219 Es zeigt sich also, daß ein Faktor des Arbeitsprozesses, ein Produktionsmittel, ganz in den Arbeitsprozeß, aber nur zum Teil in den Verwertungsprozeß eingeht. Der Unterschied von Arbeitsprozeß und Verwertungsprozeß reflektiert sich hier an ihren gegenständlichen Faktoren, indem dasselbe Produktionsmittel als Element des Arbeitsprozesses ganz und als Element der Wertbildung nur stückweis in demselben Produktionsprozeß zählt.

(訳) だから、労働過程のある要因、ある生産手段は、労働過程には全体として入るが、価値増殖過程には一部分しか入らないということが示される。労働過程と価値増殖過程との区別が、ここではこれらの過程の対象的諸要因に反映している。というのは、同一の生産過程において、同一の生産手段が、労働過程の要素としては全体的に数えられるのだが、価値形成の要素としては少しづつしか数えられないからである。

(コメント) ここにはsich reflektierenという語が「反映する」の意味で用いられているのが目立つ。経済学的内容としては、一つの生産手段が労働過程では使用価値として、価値増殖過程では価値として扱われるという趣旨であろう。

【15】 s.329 Wie diese der kapitalistischen Produktion eigentümliche und sie charakterisierende Verkehrung, ja Verrückung des Verhältnisses von toter und lebendiger Arbeit, von Wert und wertschöpferischer Kraft, sich im Bewußtsein der Kapitalistenköpfe abspiegelt, zeige schließlich

noch ein Beispiel.

（訳）このような資本主義的生産に固有でそれを特徴づけている転倒、まさしく死んだ労働と生きている労働との、価値と価値創造力との関係の逆転が、資本家の頭脳にどのように反映するか、最後にこのことをもう一つの例で示しておこう。

【16】 s.572 Diese Jeremiade ist auch deswegen interessant, weil sie zeigt, wie nur der Schein der Produktionsverhältnisse sich im Kapitalistenhirn widerspiegelt. Der Kapitalist weiß nicht, daß der normale Preis der Arbeit ein bestimmtes Quantum unbezahlter Arbeit einschließt und eben diese unbezahlte Arbeit die normale Quelle seines Gewinns ist.

（訳）この泣き言が興味深いのは、資本家の頭脳にはどんなに生産諸関係の外観だけしか反映しないかを、それが示しているからである。資本家は、労働の正常な価格が一定量の不払い労働を含んでいることも、この不払い労働がまさに彼の利得の正常な源泉であることも知らないのである。

（コメント）【15】、【16】は共通している。資本主義生産の諸法則が、資本家の頭脳に反映するとき、その反映の仕方は、外観にすぎず、事態が転倒した姿で起こるという。これはマルクスが「反映」という用語を使うときの一つの姿勢を示唆しているようである。

【17】 s.648 Es sind diese absoluten Bewegungen in der Akkumulation des Kapitals, welche sich als relative Bewegungen in der Masse der exploitablen Arbeitskraft widerspiegeln und daher der eignen Bewegung der letzteren geschuldet scheinen. Um mathematischen Ausdruck anzuwenden: die Größe der Akkumulation ist die unabhängige Variable, die Lohngröße die abhängige, nicht umgekehrt.

（訳）資本の蓄積におけるこのような絶対的諸運動が、搾取可能な労働力の量における相対的諸運動として反映するのであり、したがってそれは後者自身の運動に起因するかのように見えるのである。数学的表現を用いるならば、蓄積の大きさは独立変数であり、賃金の大きさは従属変数であって、その逆ではないのだ。

（コメント）「資本の増加が搾取可能な労働力を不足にし」、「資本の減少が搾取可能な労働力またはむしろその価格を過剰にする」ので、その逆ではないという。反映は、資本蓄積運動から労働力の大きさの増減運動へと起こる。

＊以上で『資本論』第一巻部分の分析を終えるが、第二巻以下は次回に送り、すべての検討をふまえたのち、「反映」の意味を論じたい。

(追記)

以上の原稿を提出した後、マルクス・エンゲルス関係のインターネットEテキストサイトの一つ、愛媛大学法文学部総合政策学科赤間道夫氏が主催するAkamac (URL=<http://www.cpm.ll.ehime-u.ac.jp/AkamacHomePage/Akamac.html>) から、MEW, Bd23 全文をダウンロードさせてもらった。

そしてこれをワープロソフト (一太郎13) に変換保存し、「反映」に当たる widerspiegeln などの原語が使われている箇所を全文検索してみた。

その結果予想以上に該当箇所は多く、今回検討した【1】から【17】に加えて、約10箇所の文章を追加検討する必要があるが出てきた。したがって次のノート (二) は、MEW, Bd24, 25 の検討に入る前にまず残存部分の吟味を行うことからはじめたい。

(いしい のぶお・本学経済学部教授)

(註)

竹内真澄『高崎経済大学論集』第45巻第1号 2002年6月、114頁。

拙著『マルクスにおけるヘーゲル問題』、御茶の水書房、2002年2月、188頁以下参照。

古在由重『著作集』、第二巻、勁草書房、1965年、201頁。

牧野広義『現実と哲学世界』、晃洋書房、1995年、66頁以下。